

痙性麻痺手の機能評価表（頸損は除く）の記載法

I. 麻痺歴については、病歴、治療ならびにその経過などについて略記する。

II. 原因疾患，原因障害

B. 脳血管疾患による片麻痺

疾患名がわかれば，脳出血，脳梗塞，くも膜下出血などと記載する。

D. その他

原因がわかれば，頸椎症性脊髄症，脳・脊髄腫瘍，頸椎病的骨折・脱臼，電撃，医原性などと記載する。

III. 痙性麻痺の内容

B. 肢位・（ ）内は拘縮肢位を記入

C. 随意性Brunnstrom Stage

主に脳血管疾患による片麻痺の場合の上肢の随意性について記入

Stage I：随意運動なし，弛緩性麻痺

II：随意運動が僅かにみられる，痙性がではじめる

III：共同運動出現，痙性高度

IV：部分的随意運動出現，痙性減退しはじめる

V：不十分ながらすべての随意運動回復

VI：ほぼ正常の随意運動可能，巧緻性の回復，痙性はほとんど目立たない

IV. 知覚障害の程度

図に記入するとともに，可能であれば共通書式8を用いて正中，尺骨，橈骨神経についてS₀，S₁，S₂，S₃，S₄など5段階評価する，運動機能評価は痙性麻痺手については評価困難なので記載は不要。